
ボクと彼女と後輩の恋の話。

未来瑛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクと彼女と後輩の恋の話。

【Nコード】

N5051H

【作者名】

未来瑛

【あらすじ】

「先輩好きです!」「いや、いまちよつと忙しくて…」「あらら?邪魔した?」「こんな風な『ボク』と『彼女』と『後輩』の愛憎ドロドロ物語り(注:嘘です)

ぶらぶらぐ(前書き)

ついでムラっとなつてやった。今では後悔している…

ぶるるるる

うーん

なんていうか…恋って面倒だねー

四六時中『彼女』のことを考えてしまっし、『彼女』が他の男と話しているときあまり面白くない。

ならサツサとアピってコクって『彼女』を手に入れるよ！とツツコ
ムあなた、わかっていないな

ボクはせいぜい挨拶するのがやっとなヘタレですよ？

告白なんてボクには難易度が高すぎる。

それに今のところライバルはいないっぽいし？ゆっくり頑張ればい
い

と思っただんだけどなあ…

「シン先輩！私と付き合ってください！」

この状況どうしようか？

ぶろろぐ(後書き)

就職試験前になにやってんだろう…駄文ですけど勉強の合間に更新するかもです。

いちわ

「シン先輩！私と付き合ってください！」

いや〜初のセリフが後輩に奪われたとかボクの名前がシンだったとかよりもこの告白はボクにとって衝撃的だった

いやね？

まさかボクが告白される日が来るとは思いもしなかったんだ。

あ、因みにシンは進と書くよ。

名前の由来は何事にも積極的に取り組むことが出来る子になって欲しいからだって

ごめんね〜父さんに母さんや消極的な子に育ってしまった。

おっと話がそれた

「え〜とマジですか？」

「マジです！」

マジらしい

しかし…

「なぜボクなんだ？涼子ちゃんがボクに告白する理由がわからないんだけど？顔？」

すると涼子ちゃんは

「…はっ！」

聞いた？今この娘鼻で笑ったよ？笑ったつつか嗤った？

「ナルシー宣言ありがとうございます。残念ながら（笑）違いますよ。」

この娘ボクにコクってたんだよね？

「好きになった理由ですか？あれは私が中学生のとき…」

ボクを傷つけたことはスルーかよ

まあ…いいけどね…涼子ちゃん過去編スタート…

私が中学生のとき友達と一緒に西高のバスケの試合を応援に行ったの
友達の誘いを断れなかっただけでバスケの試合なんてどうでもよか
った

面倒だな…とさえ思ってた

いよいよ西高の試合が始まって友達の手間それなりに応援をしたけ
ど試合は28対32で相手高校が微妙におしていた

試合はあと1セット私はああ…負けるかもと思ってたけど…

34対32…

試合が終わり勝っていたのは西高の方だった。

私は終わったあと今までにないくらい興奮していた。

なぜならば残り1セットで選手として出てきた当時一年生の『彼』
があまりにも圧倒的で何よりも上手かったからだ。

ボールが『彼』に自ら従うかのように跳ね

『彼』の手から放たれたシュートは吸い込まれるようにリングに落
ちる

まるで魔法のようだった。

きつとそのとき私も『彼』の魔法で恋に堕ちてしまったのだろう
シュートを決めた彼の笑顔はとても綺麗で眩しかった

もう一度あの笑顔が見たい…

そして私は西高に進学することを決めた。
もう一度『彼』に逢うために…

にわ

ぐはっ！

いや〜涼子ちゃん思い出を美化しすぎです。

真顔で褒められるのがこんなに恥ずかしいとは思わなかったよ。

いつからボクは魔法使いになったんだろう？

つかボクがバスケット部とか意外以外の何物でもないよね〜

あ〜懐かしいなあ〜

確か北高との試合だったかな？

あのとき監督が逆転できたら焼き肉食い放題って言ってたからわりとマジだった気がする

まさか1セットで三回シユート入るとは思わなかったけどねえ…

ボクの焼き肉に対する愛の力かな？

まあ…冗談はおいといてボクは涼子ちゃんに告白されてるわけだ…

しかしボクは『彼女』が好き何だよねえ…

むむむ…しかし涼子ちゃんかあ…

涼子ちゃんは染めたことのないであろう綺麗な黒髪を後ろでポニーテールにしてくっつけてある

顔もまだ幼さが残るけれど美人の部類に入るだろう

しかも上位に

わりとタイプです。

スタイルも…あゝ…去年まで本当に中学生だったのかな？
遠まわしにいうところは堅いな
うん

ボクはおっきいのも好きです
なにがかは言えない

クラス委員長やってて明るくて面倒見もいい

なんで委員長やってるかを知ってるかというところボクは生徒会に所属
しているから

うーん…しかし…なにコイツ完璧？普通告られたら即結婚式まで持
っていきたくらいだな

しかし

「ごめんね。ボク好きな人がいるんだよ」

彼女の端正な顔が強張る

だが…

「しつてます…瑞穂先輩でしょう？」

……なぜボクのトップシークレットを知っているのだろうか？あ、

瑞穂先輩ってのは『彼女』の名前ね

可愛い名前でしょ？

とノロケてみる

「シン先輩はわかりやすいんですよ。」

シン先輩はいつも瑞穂先輩をみてますから…

そういつて切なさそうに笑う

そんなにボクは『彼女』を見ていただろうか…

知らないうちにストーカーになつてた気分だ…

「でも瑞穂先輩は気づいてませんよ？だから…」
私にしておきませんか？

そういつて風に髪をなびかせる彼女はとても美しく神聖なものに思えた… だけど

「それでもボクは瑞穂さんが好きなんだ。」

そう… 一日中彼女のことしか考えられないくらいボクは『彼女』に惚れてる

こんなんじゃきつと涼子ちゃんと付き合っても良くない結果になる

「あゝあゝふられちゃた。全く瑞穂先輩が羨ましい…」

「だけど先輩？」

先輩が瑞穂先輩とくつつくまで私諦めませんからね？

そういつて涼子ちゃんは屋上から駆けていった…

ふむ、参ったな… 頬が熱いや熱いや

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5051h/>

ボクと彼女と後輩の恋の話。

2010年10月20日18時50分発行